



平成 31 年 3 月 1 日現在

世帯数	982 戸
人口	2,372 人
男	1,191 人
女	1,181 人

### 任期を振り返って

公民館運営委員長

伊藤 今朝平

第3町会公民館長に任命されましたが、ここ何年も公民館役員から遠ざかっていました。公民館長って何をやれば良いのかわからないまま、地区館長会の会長を仰せつかりました。長いようで短い2年でありました。

大勢の皆様方はじめ、役員の皆様方にご協力いただき、計画された諸行事が無事終了しましたが、内田地区最大の第52回大運動会が台風接近のため中止になり大変残念でした。

公民館活動の大切なことは人と人のつながりであり、絆を育むものであると思います。特に夏のササラまつりには大勢の子どもが参加し、内田地区にもこんなに多くの子どもがいるんだと感心しました。人権講座、視察研修にも大

勢の皆様参加をいただき、絆を深めることができました。これからも公民館活動が活発に行われるようお祈りいたします。2年間ご協力いただきありがとうございます。

体育委員長 古幡 学

内田地区の皆様こんにちは。29・30年度内田体育協会会長を務めさせていただいた古幡です。この度、無事2年の任期を終え、こうして退任の挨拶が出来る事に感謝しております。

振り返ってみると2年間という期間は長い様でとても短く、着任中は何かと至らぬ点多かったと思いますし、内田公民館長や役員の皆様、又地域の皆様のご協力無しにはこの大役を全う出来たとは思えません。今、改めて皆様にお礼を申し上げたいと思います。

体協としての活動は、内田スポーツデイから始まり、球

技大会、ササラまつり、内田大運動会、松本マラソンボランティア、市民体育大会などがあります。初年度は、すべてにおいて役員として初めての体験で戸惑った面もありましたが、体協副会長をはじめ理事長や男女理事の皆様、そして体協評議員の方々を支えられ助けてもらい、大きなトラブルもなく無事終える事ができたことに感謝しております。

最後に、新年度の皆様のご活躍を祈念しまして退任の挨拶と代えさせていただきます。



球技大会 (平成29年)



大運動会 (平成29年)



ササラまつり (平成29年)



自然観察会 (平成30年)



文化芸術視察研修 (平成30年)



文化祭・ひろばまつり (平成30年)

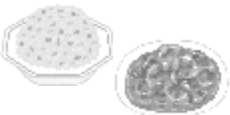
### 異文化料理教室

本年度の人権学習講座は「異文化料理教室」と題して、25人が参加して、村井町の中華料理店「楡林」のオーナーシェフ・兵藤英人さんを招き、焼豚やチャーハン、エビチリの作り方を習った。

兵藤さんから指導を受けて、豚肉を砂糖や塩、テンメシジャンなどの調味料で漬けてから焼き、柔らかくて旨味たっぷりに仕上げるコツを教わった。出来立ての焼き豚を具にしてチャーハンを作ったほか、小エビのチリソース煮もこしらえた。

参加者たちは下ごしらえの仕方や調味料を入れるタイミングをしっかりと学び、試食をして異文化料理の味を満喫した。

内田公民館長 丸山 明良



### 人権啓発視察研修 に参加して

丸山 千賀子

晴れ渡る穏やかな2月23日。今回訪れたのは上伊那郡にある聴導犬・介助犬訓練センターと、駒ヶ根シルクミュージアムです。聴導犬・介助犬訓練センターでは、可愛くもしっかり訓練された補助犬達の実演とふれ合いを体験しました。車イスの方のスリッパや靴下を上手に口でくわえ脱がせる姿や、聴力障がいの方に

は、めざまし時計やドアノックの音等様々な音を瞬時に聞き分け身体にタッチする事で、生活に必要な音を伝えその場所まで適切に誘導する等、賢くも忠実な補助犬の姿を見て愛しく感じ、頭を撫でてセンターを後にしました。あの子達の引退後はそのままペット犬とし愛され続け犬生を過ごすとの事でした。続いて駒ヶ根シルクミュージアムでバイキングランチを満喫しシルク博物館でお蚕様の養蚕と製糸の歴史を見学。ここ内田でも



一昔前まで養蚕が盛んだったとの事ですが、昔を懐かしく思い出す一場面もありました。犬とお蚕様に癒され楽しい時間を過ごし、沢山のお土産を手に無事家路へと向い人権啓発視察研修の旅は終了致しました。

### 「こんにちはふれあい健康訪問」について

内田地区の皆様、唐突ですが「地域包括ケアシステム」という言葉はご存知でしょうか。もう少しわかりやすい説明では、「誰もが住み慣れた家や地域で、自分らしく安心して暮らすための地域ぐるみの取組み」とも言われます。

これは、団塊の世代の方々が75歳を迎える超少子高齢化社会のピーク、いわゆる『2025年問題』に対処するため地域で高齢者を見守るシステムを創ろうとするものです。

今年1月の内田地区の高齢化率は29・7%と市の平均よりも高く、市内16番目に位置しています。

当地区でも、平成27年度から地域ケア会議を立ち上げ、地区内の課題等を協議してきました。そのなかで、大きく三つの課題「見守り」、「移動支援」、「居場所づくり」が必要と集約され、特に見守り体制の強化を優先課題に掲げ、多忙な民生委員さんをフォローするため町会長が主導して地区としての取り組みをはじめたところです。

今年度も見守りは、隣近所や常会、さらには民生・児童委員さんによって行われてきています。今年度、地域の見守り活動の一つとして町会長会で取り組み始めたものが、こんにちはふれあい健康訪問です。通称『ふれ健康訪問』と呼んでいます。75歳以上の一人暮らし世帯や80歳以上の老老世帯を対象に、7月は40軒、11・12月には24軒、2・3月は20軒のお宅を訪問して生活上の問題や困りごとを伺っています。

その機会にアンケート調査を行い、次の訪問や生活支援への要望を聞き取りしました。アンケートの結果から、地域の支援を望まれる声は多く、特に期待される生活支援としては雪かきと声掛け(話し相手)の要望が多く寄せられました。

この結果を踏まえ、1月に開催した地域ケア会議でも地区として何か対応ができないかグループ討議を行ったところ、いまでも隣近所や常会等が対応している状況を確認し、これからも引き続き検討を重ねていくことになりました。

内田地区地域づくり  
センター長 西村 宏美



### つれづれ編集記

スマホ等で気軽に撮影できるようになった昨今、私たちは1年間にどれほどの写真を撮影しているのだろうか? かつてフィルムカメラが主流だった時代と比較すればその枚数は桁違いである。とはいえ、記録した枚数が増えた分、沢山の思い出も残るとは限らない。膨大なデータから必要な一枚を探すのは一苦勞だし、何よりもすべての写真をじっくりと見る時間もない。翻って、子どもの頃にフィルムカメラで撮影された選りすぐりの写

真はアルバムに保管され、その一枚一枚を見ることで数多くの思い出が甦ってくる。デジカメで撮影したデータから選択してプリントすればいいのだが、生来「断捨離」が苦手な私にはそれが出来ず、データは増える一方である。

さて、館報編集委員として内田の2年間の記録をお伝えしてきたが、紙面の都合上、掲載できる写真や文字数は限られ、編集作業とは正しく断捨離であった。編集委員一同、会議を重ねながらその内容を凝縮したつもりである。時が過ぎてこの2年間を振り返ったとき、皆様にとつて様々な思い出が甦ってくる一助となれば幸甚至極である。

最後に、ご多忙の中ご執筆頂いた方々、そして毎号お読み頂いているすべての皆様に心から感謝の誠を捧げます。本当にありがとうございました。

- 館報編集委員長 近藤 栄祐
- 平成29・30年度館報編集委員
- 第1町会 近藤栄祐委員長
- 第2町会 中島弘美(全席担当)
- 第3町会 中村貴光
- 第4町会 神谷順子
- 第5町会 赤羽勝彦
- 第6町会 中村 修副委員長
- 第7町会 増塩信俊
- 第8町会 小林紀男
- 第9町会 三澤明男